

MfG_J_Splendor_of_Figurative_Art_001



基本三部作 1. 鏝絵とは

Art edition on Kote-E decoration (2022)

1. はじめに

- (1) 饅とは？
- (2) 饅絵とは？
- (3) 饅絵に何が表されているか？

2. 饅絵の見どころ

- (1) 饅絵の饅の技の冴え
- (2) 饅絵の美しい色
- (3) 背景の思想

3. トピックス

Topics (1) おかしな動物

Topics (2) 隠れた関係と意味

Topics (3) そして、もうひとつ。感謝と励まし

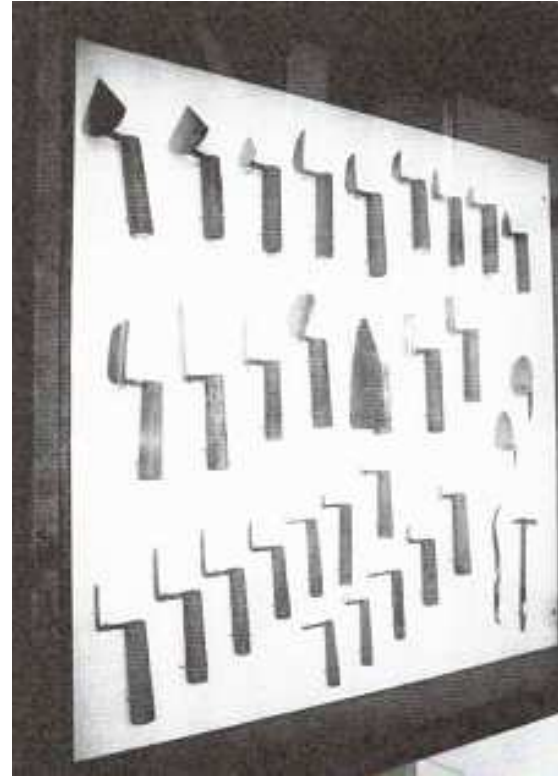
1. はじめに

- (1) 鋺とは？
- (2) 鋺絵とは？
- (3) 鋺絵に何が表されているか？

(1) 鏝とは何 ?



ペインティングナイフ
(油絵)



鏝
(しっくい塗り)

長岡郷土史
Vol47 (2010, p168)

へら、鋺を使って
陶器
粘土で型

建物の壁
建物の装飾
仏像

鋺絵

テクスチャー（画材の違い）



ペインティングナイフ
(油絵)

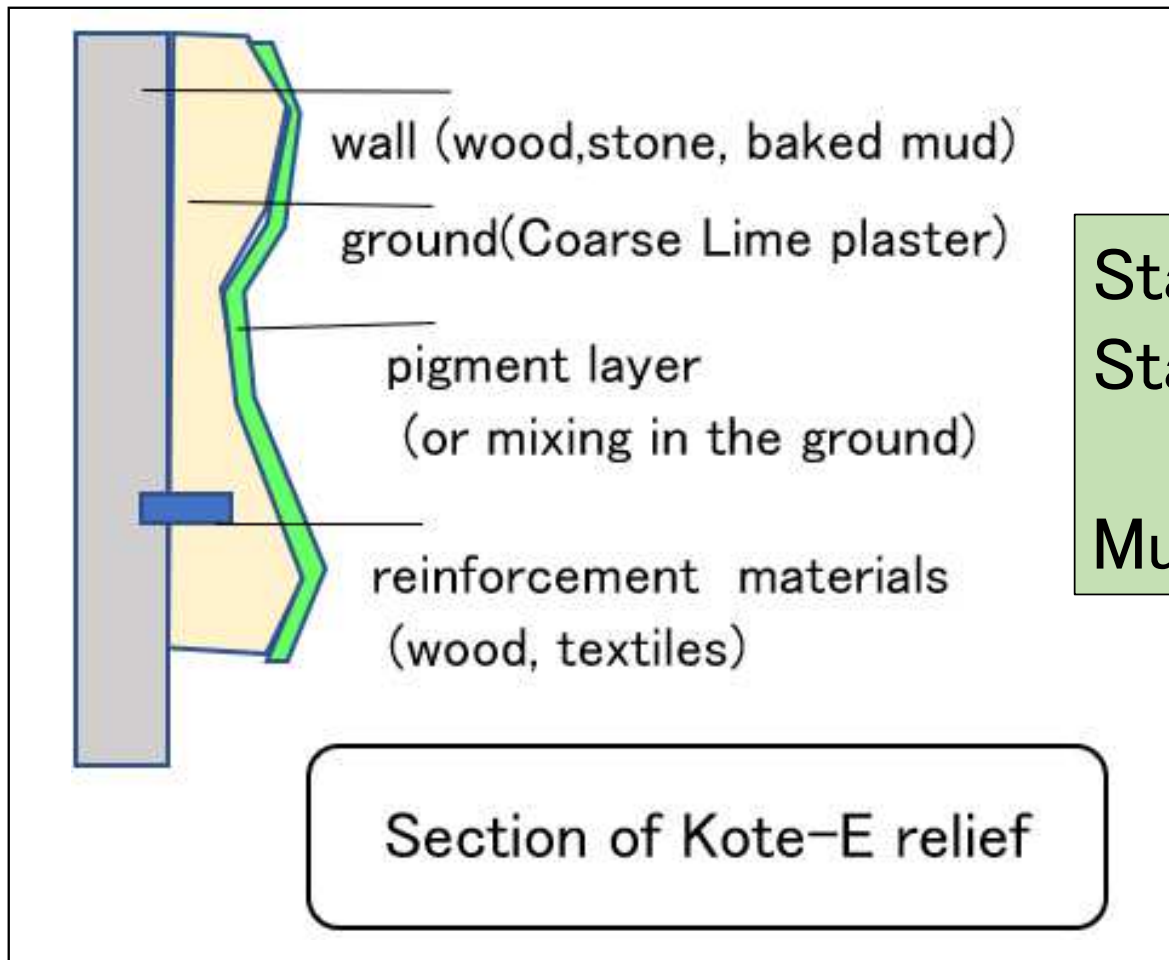


鏝
(しっくい塗りの鏝絵に筆)

鏝絵の盛り上げ



(2) 鏝絵とは何？



Statues in Gandhara,
Statues in Dunhuang

Murals in old temples in Japan

前頁は、代表例

世界には、さまざまなバリエーションがある。
西アジア、ヨーロッパ、中央アジア など

鏝でしっくり像を作るため、その地方
ごとに、入手可能な、様々な材料を
編み出した。

機那サフラン酒の鰻絵のひとつ、軒下の双龍



軒下の龍は、鏝絵蔵の鏝絵のなかで、
最も複雑な造形

--- 透かし彫りに近い造形

--- 二頭の龍のひげ、各一本が
宙に浮いている。おそらく木の枝。

鏝絵の状態

九十年以上経過し、いくら堅牢といっても、
若干の損傷が見られる。

今後、保存修復が重要な課題となる。

(3) 饅絵に何が表されているか ?

十二支
中国の四神、四霊

日本の招福のシンボル

鏝絵蔵の最大の魅力は何か？

ある人は、白壁に映える
青い鳳凰という。
全ての鏝絵を見て
みると……。



鍍絵図鑑 ページ 1,2

機那サフラン酒本舗鍍絵図鑑



切り妻屋根の破風裏に施された鍍絵には二匹の龍が舞う。朝日を浴びると鮮やかなシルシエットが浮び上がる。鍍絵の左端に「佐伊」の文字が印されているが、これは作者河上伊吉のサイン（左官伊吉の略）である。

鍍絵は、漆喰装飾の一つで左官が漆を塗る裏で描く。彫刻と反対に彫るのではなく、表現したい部分には肉付けするもので、浮かしたりするときは、芯を入れて漆喰を肉付けしていきます。江戸中期に入江長丸により全国に広まった。

上段 龍
鳳凰
中 国 伝 説 上 の 聖 獣

雄雌一対であることから、幾と圓の対立を持って調和をなすとされる。

大正15年に作られた本舗の「鍍絵の蔵」は17枚の扉全てにこの装飾が施されていて、言わば鍍絵のためのキャンパスといっても過言ではない。見て楽しんでもらうために造られた蔵。まさに「越後に咲いた土の華だ」。

下段 龍
ビールのワペルでおなじみ。鳳凰と並び麒麟の長とされる。

下段 玄武
美の四方を司る四神の一つ。北方を守護する亀の姿をした聖獣。

本舗の鍍絵はとても鮮やかに彩られている。創業者初代吉澤仁太郎は魚屋の事情に詳しい伊吉と二人で足繁く小田方面に出かけたという。小田には西福寺を始め石川雲樺の作品が多く残る地域。本舗建築に際しては雲樺の影響を少なからず受けたことが推測される。鍍絵には青色が多用されている。この青の源は古来より顔料ウルトラマリンの原料として珍重される宝石ラズベリス（ルビー）様々な効力を持つパワーストーンだ。どうやらこの建物は雲国の冬の晴れ景色を織る夢のシンボルなのかもしれない。



東面

① 龍とススキ



② 鹿と竹



③ 龍とおもた



④ 牛と紅葉



北面



どうやって作るのかわからない。彫りに耐えた左官職人に聞いたところ「鍍絵の原料は漆だから木で固まってしまふ。だから漆は時間との勝負です。この鍍絵には漆が固まらねないので、おそろく漆を塗る作業は一氣に行われたと思います。別の場所で行って、裏ではめ込んだものではありませぬ。こんなことは自分には絶対できません」

これだけの鍍絵を作り上げた河上伊吉はどんな人だったのだろうか。

⑤ 馬と松



⑥ 犬と牡丹



⑦ 羊と菖蒲



鍍絵の蔵には多くの動物物が登場する。北西と南西の扉に描かれたものはいずれも縁起物にあふれ、道力のある環境で育ち続けている。

ところで、意匠するの11・12枚かと思えば龍と鹿、犬と馬の完結コンビ。この裏面では牡丹は漆心と思はせやとご一緒。東側の扉もなぞお揃いなし。日本の悪性の独りまま発明される所感な創意力。これが仁太郎ワールド（伊吉ワールド）なのかもしれない。

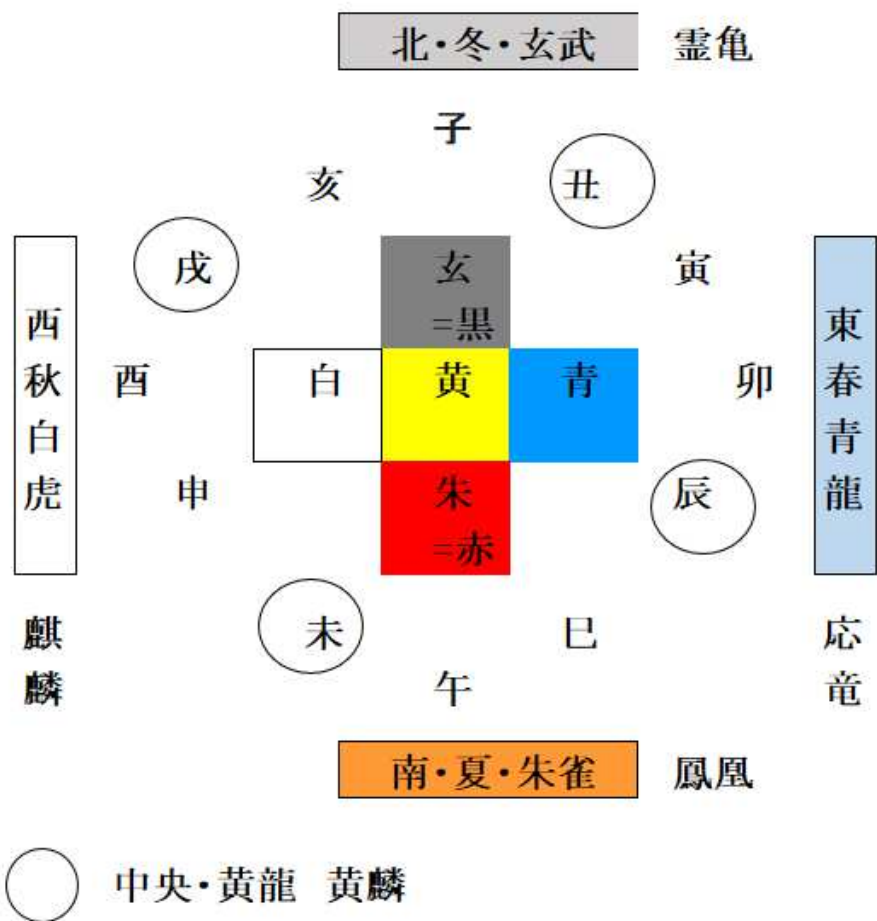
鍍絵蔵の東面

北面

五行思想

色・十二支

五行思想と色・十二支



以下の、饅絵の画題と薬師三尊台座の文様との類似は、春日の仮説です。でも、あまりに符合しており、偶然とは思えません。

次の図は、奈良・薬師寺の本堂に安置されている薬師三尊像です。

十二支に対応する十二神将

薬師如来の眷属とされ、薬師寺には見られないが、新薬師寺では、三尊像の周囲には、十二神将がいる。

そして本尊の薬師如来の台座に、多くの守護神、
または、その象徴が配置されているのです。

それらは、まさに、不思議なほど、鏝絵蔵の装飾と
一致しています。

薬師寺 薬師三尊像と薬師如来の台座の荘嚴



葡萄つる唐草文様



北面玄武



南面朱雀



東面青龍



西面白虎



十二支に通じる
十二神将は、
薬師如来の
眷属、従者

饅絵蔵の装飾

双龍
葡萄蔓の唐草文様
四神・四霊
十二支・・・ 見えないが十二神将は
薬師如来の眷属



これらはすべて
薬師如来の
属性

+

日本の招福のシンボル

そして、もうひとつ、
薬師如来の
アトリビュート、
「昇り龍・降り龍」
の証拠

かつてサフラン酒の
通用門を飾った
大看板に彫られた
「(右側の)昇り龍と
(左側の)降り龍」



ファイナルアンサー

鰻絵蔵、そのほかの建物、庭園を含む、
機那サフラン酒本舗の全ての作品は、
薬師如来のあらゆるアトリビュート(属性)の
具体化であり、仁太郎と周囲の人々全ての
守護神の具体化なのです。